

# 頰椎症性脊髄症の頰部可動域に対して単純レントゲン画像とゴニオメーターによる測定についての比較に関する研究

## 1. 研究の対象

2013年11月から2018年6月までに当院にて頰椎症性脊髄症と診断され、椎弓形成術を施行する方。

## 2. 研究目的・方法

頰椎症性脊髄症における頰部可動域の測定には、単純 X 線画像やゴニオメーターが一般的である。本研究では単純 X 線画像とゴニオメーターによる頰部可動域の関係について検討することである。相関があれば単純 X 線を撮影せずともゴニオメーターの計測で可動域の改善度合いを確認できる可能性がある。

当院にて頰椎症性脊髄症と診断され、椎弓形成術を施行する患者を対象とする。術前および術後6か月での C2-C7 角の変化量(後屈角度-前屈角度)、ゴニオメーターで計測した頰部可動域(前屈+後屈)を調査し、術前後での比較ならびに相関関係を検討する。予定症例数は15例とする。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、術前および術後6か月での C2-C7 角の変化量、ゴニオメーターで計測した頰部可動域 等

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者:

京都中部総合医療センター リハビリテーション科 恩村 直人

-----以上